

エベネゼル緊急基金  
出エジプト作戦



EBENEZER  
OPERATION EXODUS

# アメリカ系 ユダヤ人 にとっての 重要な時期

「ヤコブよ。わたしは、あなたを必ずみな集め、イスラエルの残りの者を必ず呼び集める。わたしは彼らを、囲いの中の羊のように、牧場の中の群れのように、一つに集める。こうして、人々のざわめきが起こる。」ミカ書2章12節



# アメリカ系ユダヤ人にと

USA / 国際



ジョン・プロッサー  
John Prosser  
USA出エジプト作戦  
会長

この二つのオリムの家族は、アリヤーする理由について力強い証をしてくれました。

ナオミ談(写真左)

「まず初めに、私たちがアリヤーするのは、私たちがもともといるべき場所で生活して、できる限り神に仕えることができるようになるためです。私たちは、散らされた民が集められるということの成就の一部になりたいのです。」

チャビバ談(写真右)

「アメリカと世界における反ユダヤ主義の台頭が、私が子供たちをイスラエルに帰らせたい主な理由です。ユダヤ教とユダヤ人の心はイスラエルで燃えるのです。そこから初めて私たちは国々に対して光となれるのです。」

「ヤコブよ。わたしは、あなたを必ずみな集め、イスラエルの残りの者を必ず呼び集める。わたしは彼らを、囲いの中の羊のように、牧場の中の群れのように、一つに集める。こうして、人々のざわめきが起ころ。打ち破る者は彼らの先頭に立って上って行く。彼らは門を打ち破って進み、そこを出て行く。彼らの王が彼らの前を、【主】が彼らの先頭を進む。」ミカ書 2 章 12 - 13 節

USA出エジプト作戦は、未だかつてないほど、イザヤ書 49 章 22 節の成就のための、ユダヤ人のイスラエル帰還を支援する緊急なチャレンジに直面しています。これからの困難な時代の中で、ユダヤ人支援の認識を広めるために、私たちは努力をしております。今こそは堅く立ち、勇気をもって、神様がご自身の民をイスラエルへ集められる働きに参加する献身をする時だと思ひます。

USAからのアリヤーは日ごとに厳しいものとなっています。それは、ただアメリカからだけではなく、他の国々からのオリムにとっても同様です。アリヤーすることは、多くの予期せぬ遅延を伴う非常に複雑で難しいプロセスとなっています。そしてこのことが、彼らに多くの恐れと不安をもたらしています。オリムの中には、遅れが起こることを予期せずに、自分の事業、家を買った人や仕事をやめた人たちもいます。ですから、中には、自分がしようとしていることが正しいことなのか、またアリヤー自体が正しい決断なのかを疑っている人たちもいます。また、イスラエルで直面する不安や危険について心配している人たちもいます。

アメリカにおける私たちの生活は、癌が進行



するように衰退しており、その状況はユダヤ人にとっても異邦人にとっても同様です。反ユダヤ主義が驚くべき速さで、わが国の力と影響力を持つ大都市において進行しています。

アメリカ系ユダヤ人たちはそのことを心に留めています。しかし大多数のユダヤ人にとっては、アリヤーが彼らの最初の選択ではないようです。アメリカのホロコースト生存者は、今日目撃している悲惨な出来事を嘆いています。これらの状況を彼らがナチスの支配の時に体験した過去の残虐行為と関連づけています。彼らは仲間のユダヤ人たちに、時の印を見分けるように警告しています。悲しいことに、ほとんどのアメリカ系ユダヤ人にとっては、生活は今までのまま継続しています。ですから、手遅れになる前に、アリヤーしなければならない、という警告は彼らに響いていません。

私たちのまわりにいる大きなユダヤ人コミュニティのリーダーと、(特にニューヨーク、ニュージャージー州など)連絡をとることは、なかなか難しく骨の折れる働きです。





# っての重要な時期

ユダヤ人人口は非常に大きく、多様です。このような場所において、アリヤーの旗を掲げる必要があります。祈りは扉が開かれるための鍵であり、ユダヤ人が神様のイスラエルとの契約を信頼するように励ます機会となります。

主は私たちが神様の預言的な言葉に同意して、熱心にとりなし祈っていくことを通して、私たちが預言的な働きをするように召しておられます。聖霊のとりなしの祈りの祭壇は、とりなしに焦点を当てる時に、アメリカ系ユダヤ人がアリヤーするのを遅らせたり妨げたりする障害を取り除く武器となります。祈りは、私たちが直面する時代の必要を満たすために、さらに成長し強化されていく必要があります。

アメリカ中に地域代表のネットワークを拡大することは、私たちの働きの成功のために欠かせません。私たちには、忠実な経験豊かなパートナーのチームがあります。また、主要な焦点は、さらに多くの人が参加することです。

地域のユダヤ人とクリスチャンのコミュニティとの関係を築いていくことは、現在の働きにとって非常に重要です。教会の支援は、私たちの準備にとって非常に重要です。このような努力を通して、今日の困難な時代に、アリヤーの働きを助けていく強い体制を支援するために協力関係を促進していくでしょう。教会に分かち合う教えのための資料を開発することは、ユダヤ人がイスラエルへ帰還することを支援する異邦人の責任について強調する中で中心とな

るものです。

将来の世代の為に投資し整えていくことは、私たちの団体にとって非常に貴重なものです。敬虔な人たち、そして、イスラエルとともに立つ願いを持つ人たちと繋がることによって、私たちの働きはさらに強化されていくでしょう。アリヤーの働きの成長と認識は、彼らの努力を通して増加していくでしょう。そしてさらに将来、ユダヤ人の帰還への支援が増加することでしょう。

エベネゼル国際出エジプト作戦と協力することは、USAのエベネゼルのリーダーシップにとって非常に重要なことです。神の完全なみこころとタイミングにある一致の中で、この混乱した時代に、アリヤーの働きをともに導く中で、私たちは互いを支援しあい、とりなしを通してさらに強く立つことができるようになることを確信しています。

主が私たちの元に、アリヤーのために励まし祈り、支援する人々を送ってくださったことを感謝しています。アリヤーは、多くのオリムにとって夢の実現なのです。彼らにとって、アリヤーするという決断は、アメリカにおける不確かな生活と、台頭する反ユダヤ主義による彼らに対する憎悪と暴虐への答えなのです。

私たちは、アメリカからの力強いアリヤーの波の入り口に立っているのでしょうか？それは、神様だけがご存じです。私たちは、彼らの前に進んでくださり道を開いてくださる方を信頼しています。そして民は、門を開いて出ていくのです！この神に、すべての栄光、賛美、誉がありますように！

## 用語解説

アリヤー(Aliyah):

ユダヤ人が約束の地、イスラエルに帰還することを意味します。

ユダヤ機関 (Jewish Agency):

ユダヤ人の国際的機関。パレスチナにユダヤ人の本拠を設けるというシオニストの計画の対外機関。パレスチナへのユダヤ移民の監督、ユダヤ系経済組織の確立などに努める。

オリム(Olim):

イスラエルに帰還するユダヤ人



左: ニューヨーク Fifth Avenueにてイスラエルパレード

昨年のパレードのテーマは、ニューヨークにおける反ユダヤ主義とイスラエルにおけるテロ攻撃を受けて、「Together Again (再びともに!)」というテーマでした。



# 主にとって難しすぎる ことはあるでしょうか？

## ウクライナ



バディム・ラボチー  
Vadim Rabochy  
ウクライナコーディネーター

現実とは思えないことですが、ロシアとウクライナの戦争が始まって一年以上が経ちました。国民の多くもそうですが、私たちも砲撃やミサイル攻撃や恐ろしいサイレンの音などに悩まされています。数多くの困難な状況を体験する中で、私たちはユダヤ人が戦争中であってもイスラエルへ帰還する支援をしています。ですから、私たちはこのように証しすることができるのです。「もしも主が私たちの味方でなかったなら、人々が敵対してきたとき、そのとき彼らは私たちを生きたまま丸呑みにしていたであろう。彼らの怒りが私たちに向かって燃え上がったとき」詩編124篇2, 3節

キエフ地方のブチャとイルピンは、戦争勃発初期の殺害でよく知られている場所です。エベネゼルは、それらの町出身のいくつかのユダヤ人家族がイスラエルに帰還する支援をしました。戦争が始まった当時、オレクサンダーとマルガリータはどこへも行くことができませんでした。なぜなら、彼らの成人した娘のオレナが脳性麻痺を患っており、車椅子がないと移動で



ルの運転手は小さな道を通って少しずつ移動しなければならませんでした。たくさんの検問所があったのでキエフに入るまでには長い列がありました。それで彼らは電車に乗ることができませんでした。しかし、主をほめたたえます。私たちは何とか、その日の夜の電車の切符を購入することができ、彼らは電車に乗ること



写真：  
オクサナとその家族  
ヤンヤとビクトルとともに  
彼らから支援物資  
を受け取り、アリヤーに  
ついての情報を受けて  
いる。

きなかったからです。しかし、彼らは何とか生き延びることができました。その家は郊外にある古い家で誰の注意も引かなかったからです。自分の野菜を缶詰にしてあったおかげで、何とか食べる物がありました。ブチャが解放された後はすぐに、エベネゼルは彼らがリビブ地域に避難できるよう手配しました。

彼らがウクライナ西部の安全な場所へ避難する旅は、冒険そのものでした。ブチャの多くの場所は地雷が埋められていたため、エベネゼ

ができ、翌朝には無事に到着することができました。オレクサンダーとマルガリータとオレナはほとんど服を持たずに着いたので、私たちは彼らの新しい服を買いました。マルガリータは、彼女に新しいスリッパを買った時に特にうれしそうでした。

彼らは、ゆっくり休養した後、イスラエル領事面接のためにポーランドへ連れて行きました。そして2022年4月の末には、この3



# 道を見つけ出す

イゴルとナーシャと娘のズラタはイルピンに住んでいましたが、戦争が始まった日にそこからキエフのある場所に避難しました。イルピンがロシア占領から解放されてから戻って見ると、彼らのアパートは破壊されて車はミサイルによってダメージを受けていました。それで彼らはもう一度そこを去り、ウクライナ西部に引っ越しました。そこで、ナーシャは妊娠したことを知りました。それで、彼らは、もう一度引っ越すことに決めました。今回はイスラエルへの引っ越しです。

エベネゼルは、この家族がウクライナ国境からポーランドへ移動するのを助けました。イゴルが先に行って、別の車でナーシャとズラタが続きました。悪天候のため、エベネゼルのポーランド支部に一泊しそれからワルシャワに到着しました。そこで書類の審査のためイスラエル大使が到着するまで、3日間待つことになりました。

大使からさらに書類の要請があったため、ナーシャはキエフに戻らなければなりません。そこで私は彼女がその必要書類を探すのを助け、もう一つの必要書類は、モスクワの赤十字を通して受け取ることができました。

その後ワルシャワに戻り、家族はアリヤーのためのビザを取得することができ、1月にイスラエルへ飛び立つことができました。

昨年、エベネゼルチームはウクライナ西部において、ユダヤ人家族に出会い、食料物資を配布することを通して、彼らにイスラエル帰還を励ます良い機会に恵まれました。この旅行の中で、ユダヤルーツを持っている、アリヤーすることが可能な人々に出会うことができました。実り多い旅となりました。

ウクライナ全土が、停電やミサイル攻撃などで苦しんでいる中、エベネゼルは食料物資や衛生用品や衣服などを、カーキフ、ドニプロ、ザポリattiaアーニャやオデッサなどの町に住むユダヤ人家族に届けてきました。ユダヤ人に対する愛と支援を表すこの働きができることは、私たちにとって大きな特権です。特に、命の危険にさらされている人々のために支援できることは祝福です。私たちは、神様にとって難しすぎることは何一つない、そして神様が彼らのすべてをイスラエルへと帰還させてくださることを信じています。

## ウクライナ



タニャ  
Tanya  
ウクライナチーム

写真 上:ナーシャの車がミサイルでダメージを受ける

左:タニャとイゴル、ナーシャ、ズラタ



人は無事に彼らの真の故郷イスラエルへ着くことができました。





# ハンガリーからの支援

## ハンガリー



スザンナ・フィゲレド-キス  
Zsuzsanna Figueredo-Kiss  
ハンガリーチーム

「わたしはあなたがたを諸国の間から導き出し、すべての国々から集め、あなたがたの地に連れて行く。」エゼキエル書36章24節

主の恵みによって、ハンガリーのエベネゼルチームは、ウクライナからの難民がイスラエルに定住できるように支援をしています。支援を通してアリヤーが私たちの目の前で起こるのを見ることは大きな特権です。

ブダペストのある教会が、支援を申し出てください、二回に渡って教会バスと運転手を提供してくださいました。また、スイスのエベネゼルチームは、必要な限り使ってよいということで、ミニバスを貸してくださっています。さらに12月にあらたな支援が、あるクリスチャンの兄弟から提供されました。彼は、エベネゼル所有のミニバスをルーマニアから持って来て提供してくださいました。

昨年10月から、ハンガリーのエベネゼルは、交通手段の支援を始めましたが、80あまりのユダヤ人の家族が今までウクライナ故郷から、アリヤーを願うユダヤ人のためにユダヤ機関が経営しているブタペストにあるホテルまでの移動を支援しました。ハンガリーの首都に着くと、彼らのほとんどはイスラエル領事から許可証をもらい、祖先の地へ帰還を遂げました。

2月末に、イスラエル領事は、需要が減少したことによりハンガリーを出しました。ですか

ら現在はウクライナからのユダヤ人は、私たちの国からはアリヤーすることができません。しかし私たちは、神様がこのプロセスを治めておられ、必要が生じた時には、いつでもどこにおいても扉を開いてくださることを信じています。私たちはアリヤーの働きに重荷を持つ人々すべての熱心な祈りを必要としています。

お祈りください

- { イスラエルに帰還する人たちがイスラエルで根を張ることができますように
- { ・私たちがいつも主のことばを聞いて明確な導きを受け取り、神の選びの民がアリヤーするための支援をすることができすように。私たちに主の御計画の明確な理解と、行動を起こすための大胆さが必要です。
- { ・主がユダヤ人の心に橋を架けてくださるように、また私たちが今後のために整えられていきますように。
- { ・神様によって召された人々が、とりなし手やボランティアとして、ともに翻訳やSNSを通しての支援をするようになりますように。
- { ・主がさらに多くの教会や牧師を召してエベネゼルの支援するようになりますように。
- { ・主がクリスチャンの心に働いてくださり、彼らがイスラエルやユダヤ人のために祈るようになりますように。





# アリヤーの励まされるしるし

「彼らは【主】の後について行く。主は獅子のようにほえる。まことに主がほえると、子らは西から震えながらやって来る。」ホセア書11章10節

出エジプト作戦は2022年に、「西からのアリヤー」に祈りの焦点をあてていました。なぜなら、私たちはアメリカや西側諸国からの大勢のアリヤーが今後起こることを信じているからです。しかし、私たちは神様の御手を無理やり動かそうとしたり、神様を急がせることはできません。なぜなら、このために神様が定められた時があるからです。しかし、私たちの一年かけての祈りが実を結んだというしるしはあるのでしょうか？

神様はこの定められた時のために準備をされているようです。ベンジャミン・ナタニヤフが率いる新しいイスラエル政府は、オフィル・ソフェルを、アリヤー吸収省の大臣に任命しました。彼が語るところによると、今後、西側諸国、主にアメリカやフランスなどからの移住者の吸収のために、さらなる努力をしていくということです。

オフィル・ソフェルはアメリカ出身のラビたちと会談し、彼らに今後さらにアメリカのユダヤ人社会からのアリヤーを促進するための支援を要請しました。彼はまた、西側諸国からのオリムを引きつけるために、西洋風の家を思わせるような家をイスラエルに建築したいと願っています。これらの家は、イスラエルのコミュニティには、同じ出身国の言語を話す人たちが一緒に住むことができるようにし

ます。このような試みも、言語の壁に対処していくために助けとなることでしょう。

彼はまた、18歳から29歳までの年齢層のオリムを引きつけたいと願っています。なぜなら、この年齢層の人たちは、適応能力が強い傾向があるからです。実際、彼らは年配の人達よりも、イスラエルの生活に適応しやすいようです。もちろん、年配の人たちの中にも十分適応できている人たちもいます。特に、自分の家族のメンバーと合流できた場合には、適応しやすいです。

オフィル・ソフェルは、吸収バスケット（オリムがイスラエルに到着した時にイスラエル政府から受け取る経済的支援のこと）の経済的な価値を増やしたいと願っています。なぜなら、2015年以来、その支援額が据え置きになっていたからです。彼はまた、家賃についても、新しいオリムへの支援の仕方を変えていきたいと願っています。

## 祈りのポイント

主よ、素晴らしい方法で祈りに応えてくださり感謝します。

- 多くの若いオリムがイスラエルへ帰還できますように。
- ユダヤ人の多くのコミュニティが一緒にアメリカやフランスから帰還できますように。
- 吸収バスケットの額が増額することによって彼らを助けてください。

## 祈り



フィル・ルムレー  
Phil Lumley  
イギリス祈りのリーダー

5-13 August  
**POLAND**  
Ebenezer Young Adults Retreat

Visting Auschwitz  
Organising Aliyah Transfers  
Discipleship teaching  
Cooperation with Christian and Jewish organisations

€299

CONTACT US  
daniela@engage-israel.org

EBENEZER INTERNATIONAL CONFERENCE  
Jerusalem 17-22 November 2024

# Light in the Darkness

ISAIAH 60:1-2

BOOKING INFORMATION  
[www.ebenezer-oe.org/events](http://www.ebenezer-oe.org/events)







# 重要な乗り物

ウクライナ



ジェレミー・スミス  
Jeremy Smith  
イスラエルコーディネーター

2023年1月のはじめに、私はエルサレムからハイファに運転して行き、出エジプト作戦イスラエルに、最新の届け物をしました。それは、中古の9人乗りのミニバスです。これが即座に使われるとは知りませんでした。なぜなら、その日の夜にハイファハウスのスタッフが新しい移住者の家族がたくさんの荷物とともに新しいアパートに引っ越すのを手伝うことになっていたからです。この家族は、私たちの支援とサポートにとっても感謝していました。

イスラエルでは一日車をレンタルすることは、考えられないほど高くなります。ですから、この乗り物は本当に必要を満たすものとなり、ユダヤ人の移住者がイスラエルで新しい生活を始める支援をするために助けとなっています。

このミニバスがあれば、必要に応じて、新し

い移住者を空港からハイファハウスまで連れて来ることができます。そしてそこで滞在してから、新しいアパートに引っ越すのです。また、家具や他の様々な物資などを運ぶためにも使われます。また、今までしてきたように、過ぎ越しの食料物資ボックスなども配るために用いることができるでしょう。

イスラエルでは、まずは最初に滞在する場所を提供する事を主にしていましたが、現在は、基本的な生活物資を提供することに移行しています。たとえば、新しい移住者に家具を提供することなど。なぜなら、彼らの多くは最小限の荷物しか持っていないので、ベッドや冷蔵庫や他の実際的な生活用品が必要になります。この状況下では、私たちに保管場所が必要となっており、また、このような様々なものを配達するボランティアも必要となっています。

イスラエルに住むことは本当に困難なため、オリムの中にはあきらめて元の場所に戻るケースもあります。しかし、もし私たちがそのような人たちの生活の適応のプロセスをもっと楽にすることができるなら、彼らは元の場所に戻ることは減るでしょう。

エベネゼルチームは、イスラエルの人道的援助団体にも働きかけて、必要のある人々をどうやってより良い形で協力して支援できるかを模索中です。このようにして、私たちはユダヤ人とクリスチャンの団体との関係を築いており、私たちのもつリソースを最大限に生かして用いていきたいと努めています。

このミニバスを経済的に支援してくださった方に、心からの感謝を申し上げます。国々におられる皆さんとともに働きながら、ユダヤ人をこのイスラエルの地に植えるという神様からの召しに従っていきたくと思います。



写真 上: 出エジプト作戦イスラエルの新しいミニバス  
オリムの支援で活躍中



**Operation Exodus**

Ebenezer Operation Exodus  
International & UK Office  
PO Box 9103, Bournemouth  
BH1 9DA, UK  
+44 (0) 1202 294455  
enquiries@ebenezer-ef.org  
www.operation-exodus.org



Operation Exodus USA  
PO Box 568 Lancaster NY 14086  
Phone: 716 681 6300  
info@ebenezerusa.org  
www.ebenezerusa.org



**エベネゼル緊急基金日本支部**

〒062-8691 豊平郵便局私書箱 37 号  
Tel&Fax: 011-813-3558 (岡田)  
paginamaestro@hotmail.com  
http://eefj.org  
郵便振替 (名称) エベネゼル緊急基金  
(番号) 02710-0-55842

Operation Exodus (出エジプト作戦) はエベネゼル緊急基金の実際的な働き名称です。すべての国々からユダヤ人がイスラエルの地に帰還するように支援しています。彼らが約束の地に帰還するという神の計画と目的を宣言するべく 1991 年に 3 人の人から始まりました。

イギリス本部、アメリカ、スイス、ドイツを中心に国際的活動を展開し、さらにイスラエルを含めた 25 カ国に各国代表者と各国支部を配置しています。そして、旧ソ連諸国には実際的な働きのために、数多くの活動の拠点を設置しています。日本支部もその働きの一部です。